

令和元年 千葉県医療費の状況

●背景

高齢化及び医療技術の高度化に伴い、今後も医療費が増大していくことが見込まれる中、医療費の適正化に向けた対策を行うことが必要である。

●目的

医療費の現状等を把握することにより、データの見える化を図り、医療費の適正化に向けた対策を検討することや、県民に生活習慣病の予防、健康づくりの大切さを認識してもらうことを目指す。

●方法

平成26年度～30年度のレセプトデータ（KDBデータ※）を用いて、年齢別、疾病別、地域別等の観点から、県全体及び市町村の医療費の比較分析を実施。

※格納されるレセプトデータは1次審査で決定されたレセプト（保険者により返戻されたレセプトを除く）

※紙レセプトは含まない。

※療養費の情報は含まない。

●対象レセプト

- ・市町村国保及び後期高齢者医療

※今回は、各年度における被保険者に紐づいた医療費を集計した為、公表値と異なる

- ・レセプト件数（1次査定済みのもの）

※今回は、各年度における被保険者に紐づいた件数を集計した為、公表値と異なる

(円)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	計
市町村国保	21,303,164	22,320,711	22,202,061	21,934,498	21,929,092	109,689,526
後期高齢者医療	17,656,096	18,998,351	20,148,512	21,304,262	22,384,589	100,491,810
計	38,959,260	41,319,062	42,350,573	43,238,760	44,313,681	210,181,336

- ・診療年月 平成26年4月診療分～平成31年3月診療分

- ・医療費の範囲 医科及び歯科診療にかかる医療費、薬局調剤医療費、入院時食事・生活医療費（レセプト記載点数×10）

- ・被保険者数 1ヶ月のうち1日でも国保に加入している場合、1ヶ月加入とみなし年度平均の算出に使用

● 同一月内に同成分の薬剤を複数医療機関から処方された患者数割合

- ・ 患者：平成30年度同一月内に、同一成分（薬価基準収載医薬品コード7桁）の医薬品の処方を受けた者
※ 医療機関数を① 2 医療機関、② 3 医療機関、③ 4 医療機関以上 に分割した集計も合わせて実施
- ・ 患者数割合：国保・後期および市町村別の被保険者に占める患者数の割合

● 同一月内に複数種類の薬剤を処方された患者数割合

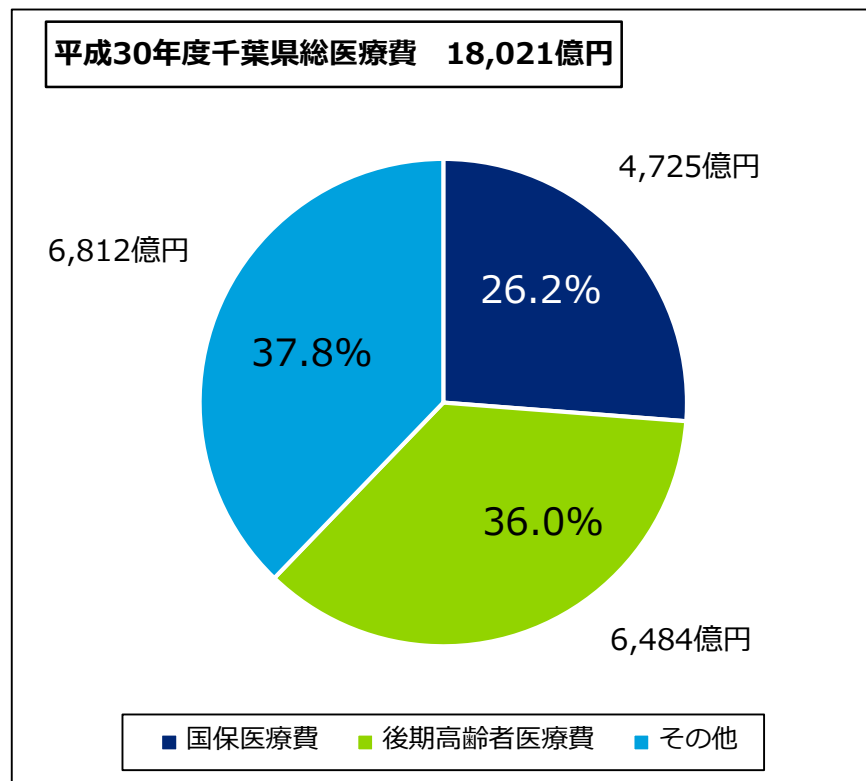
- ・ 患者：65歳以上で、平成30年度同一月に15種類以上の医薬品の投与を受けた者
- ・ 患者数割合：国保・後期および市町村別の被保険者に占める患者数の割合

第1章 総医療費等の状況

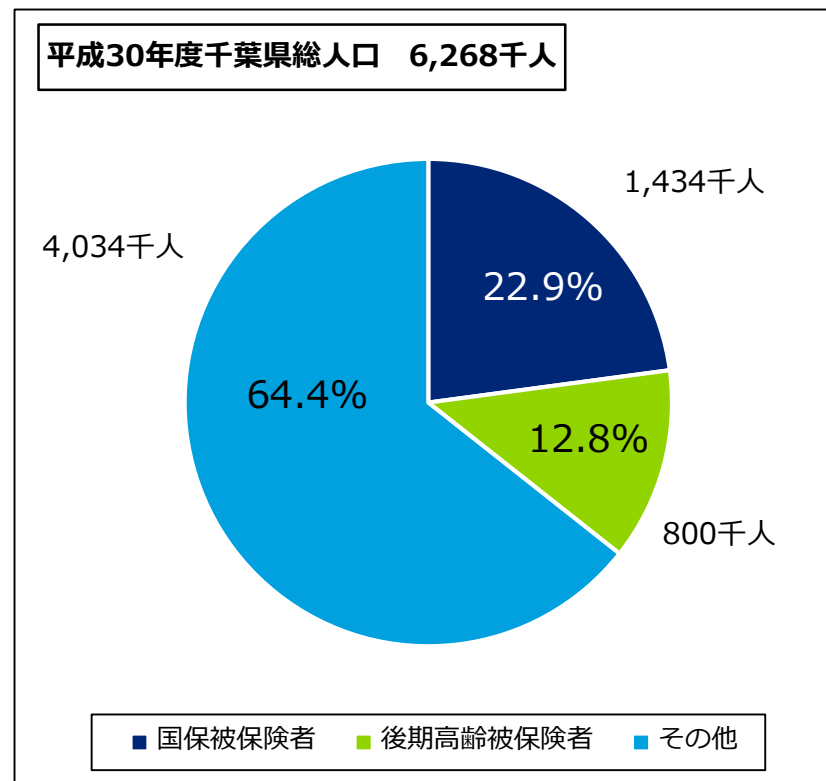
1-1. 千葉県全体の医療費、被保険者の状況

- 平成30年度の千葉県全体の医療費のうち、国保医療費が占める割合は26.2%、後期医療費が占める割合は36.0%となっている。被保険者数をみると、国保被保険者は約143万人で千葉県人口の22.9%、後期被保険者は約80万人で千葉県人口の12.8%を占めている。

【医療費の割合】



【被保険者の割合】

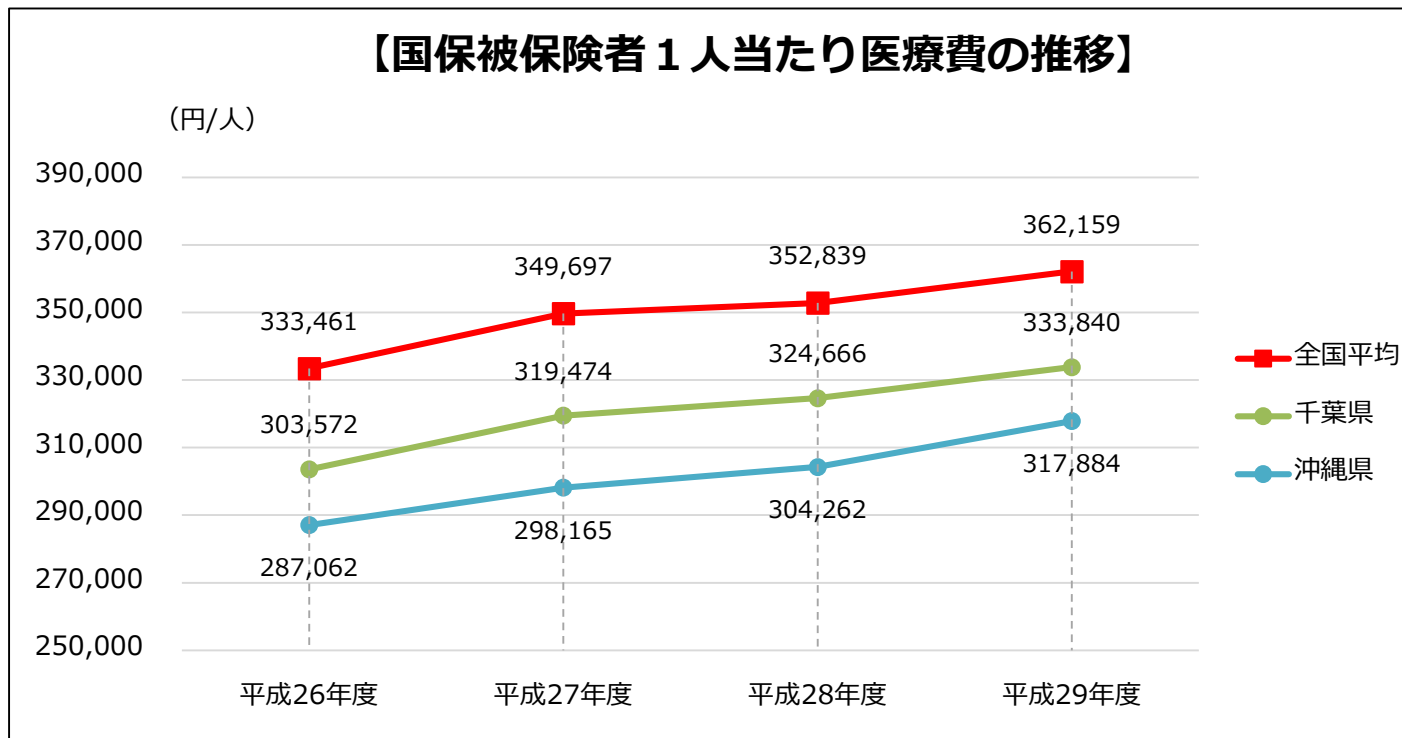


※被保険者における医療費の集計

データ：医療費の動向（厚生労働省）
国民健康保険事業年報（厚生労働省）

1-2. 千葉県国保の被保険者 1 人当たり医療費の状況

- 平成29年度の国保被保険者 1 人当たり医療費は、千葉県が333,840円で、全国平均の0.92倍、最も低い沖縄県317,884円の1.05倍となっている。



	全国平均	伸び率	千葉県	伸び率	沖縄県	伸び率
	(円/人)	(%)	(円/人)	(%)	(円/人)	(%)
平成26年度	333,461	2.75	303,572	3.72	287,062	3.66
平成27年度	349,697	4.87	319,474	5.24	298,165	3.87
平成28年度	352,839	0.90	324,666	1.63	304,262	2.04
平成29年度	362,159	2.64	333,840	2.83	317,884	4.48

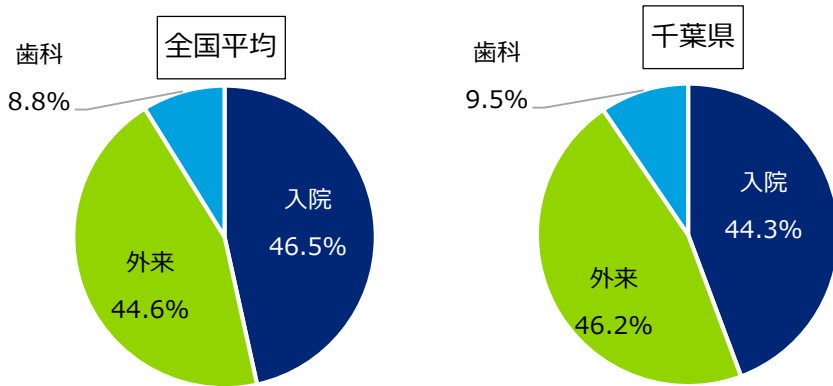
データ：国民健康保険事業年報（厚生労働省）
※国保組合を除く

1-3. 千葉県医療費の内訳（入院／外来＋歯科）

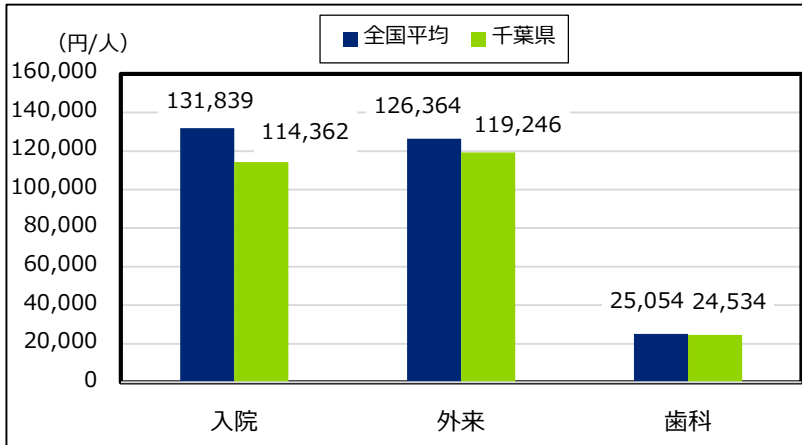
- 平成29年度の医療費を入院、外来、歯科に分けた割合を全国と比較すると、国保は入院の割合が低く、外来＋歯科の割合が高くなっており、後期は入院の割合が高くなっている。
また、被保険者1人当たり医療費は後期の歯科を除いて、全国平均を下回っている。

国民健康保険

【医療費の割合（入院、外来、歯科）】

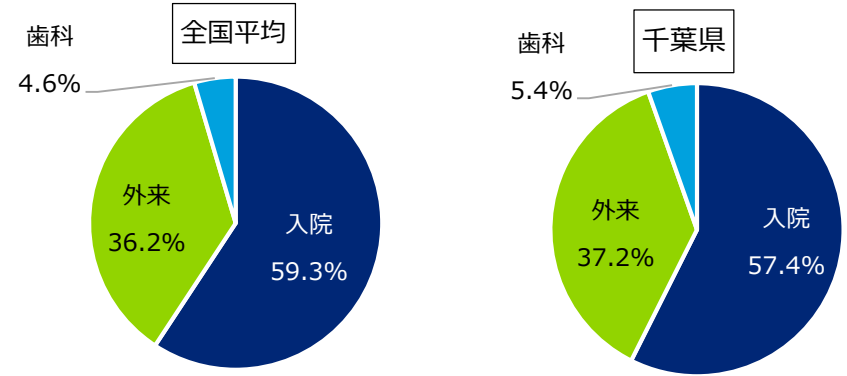


【被保険者1人当たり医療費】

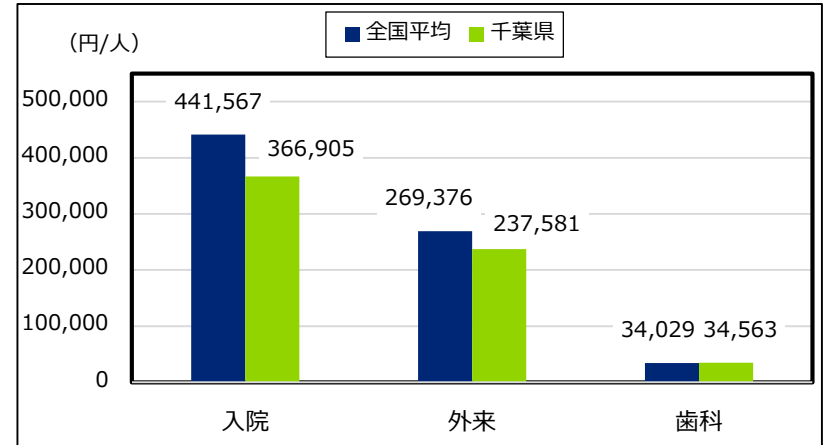


後期医療制度

【医療費の割合（入院、外来、歯科）】



【被保険者1人当たり医療費】

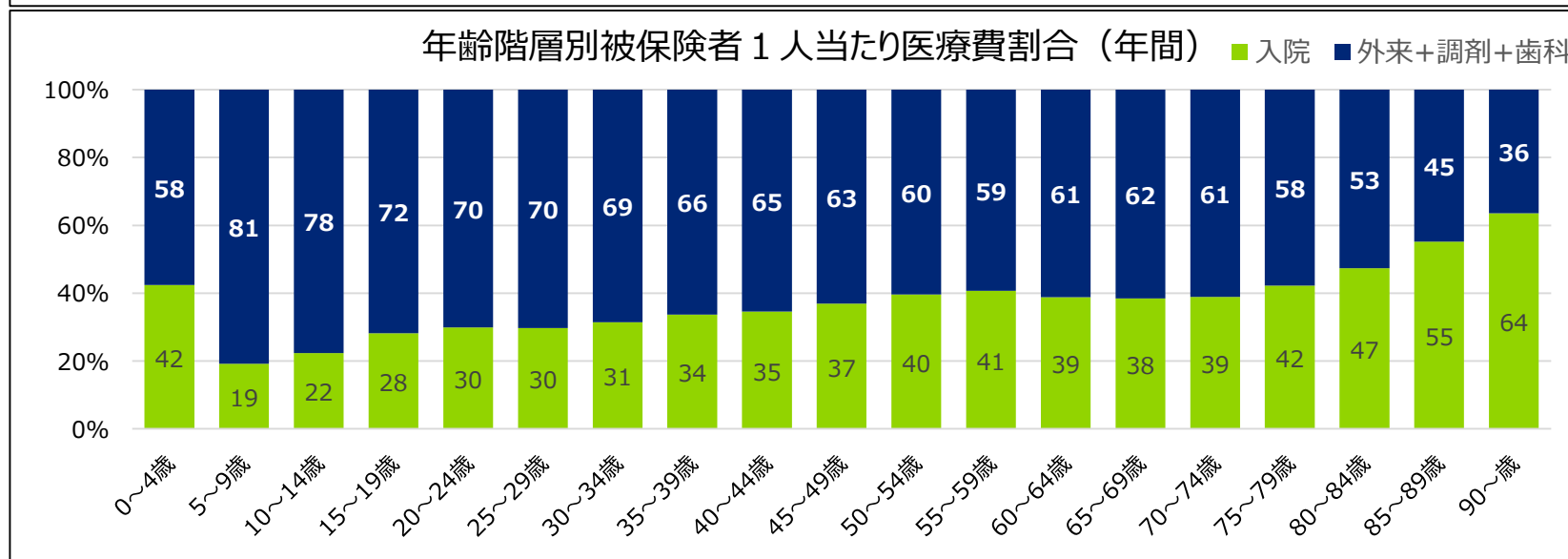
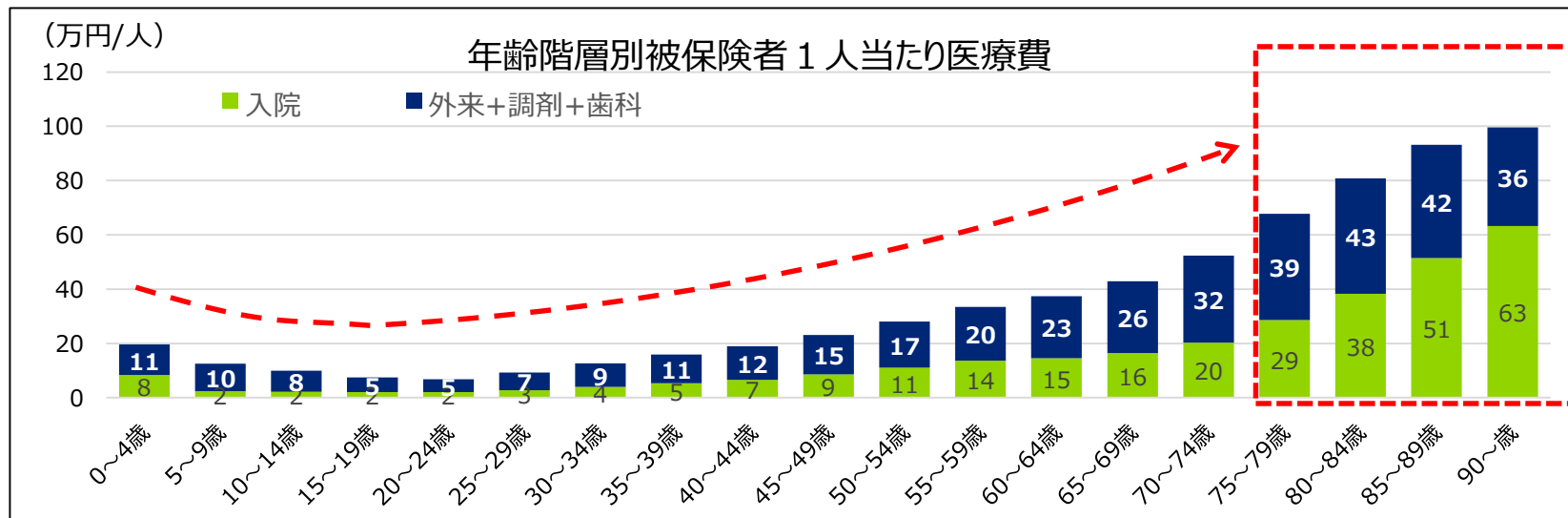


データ：国民健康保険事業年報（厚生労働省）
後期医療事業年報（厚生労働省）

第2章 年齢別の状況

2-1. 年齢別の被保険者1人当たり医療費（入院／外来＋調剤＋歯科）

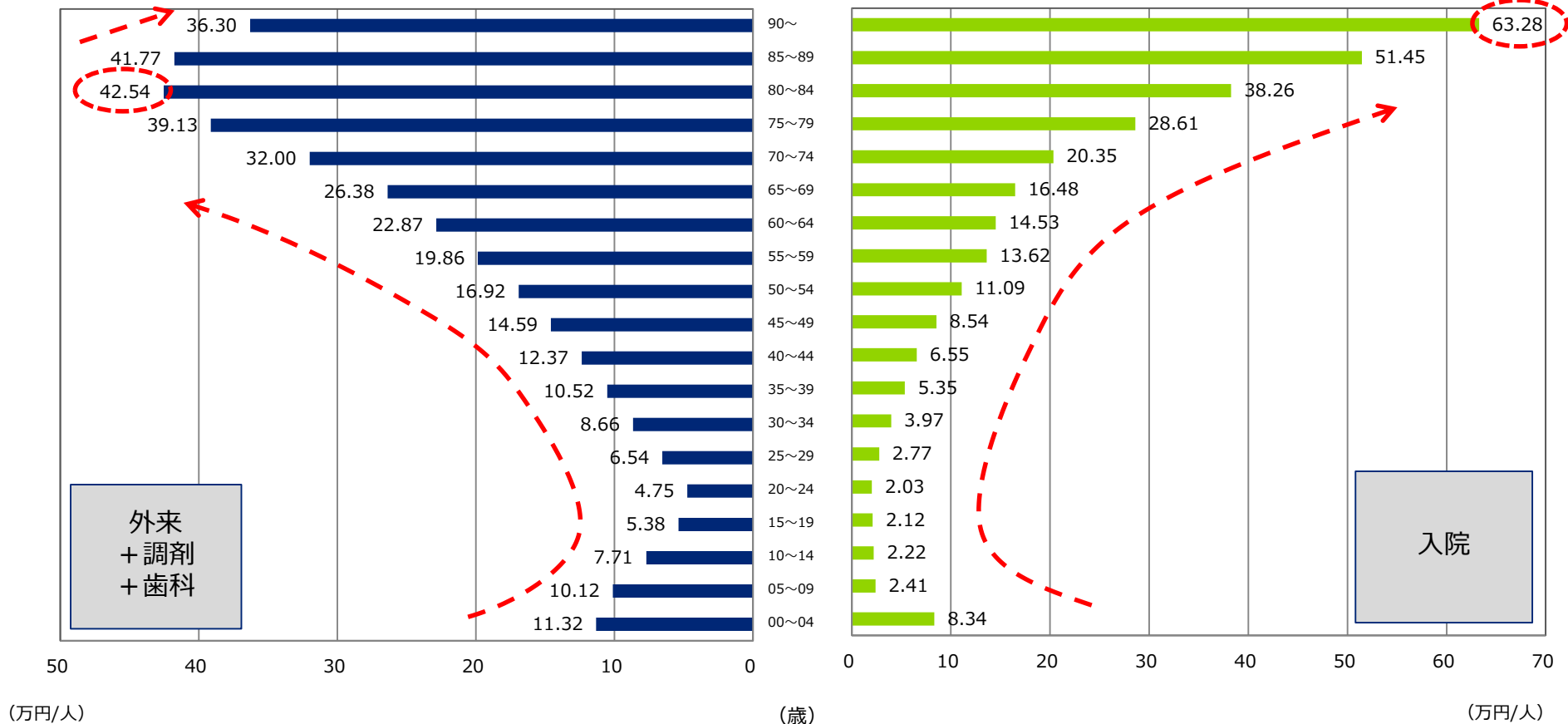
- 被保険者1人当たり医療費は、15～24歳が最も低く、以降は加齢とともに増加している。
- 被保険者1人当たり医療費は、5～74歳で外来＋調剤＋歯科が全体の6割以上を占めるが、75歳以降から入院に係る医療費の割合が増加し始め、85歳以降では入院が外来＋調剤＋歯科を上回る。



2-2 (1) . 年齢別の被保険者 1 人当たり医療費の三要素分析 (入院/外来+調剤+歯科)

■被保険者 1 人当たり医療費

- 入院、外来+調剤+歯科ともに、0～4歳を基準に見ると5歳以降一定の年齢まで減少する傾向が見られ、20～24歳が最も低くなり、その後増加に転じる。
- 入院は70歳以降の増加割合が高くなり90歳以降まで増加を続ける一方、外来+調剤+歯科では80～84歳がピークとなり、85歳以降では減少に転じる。

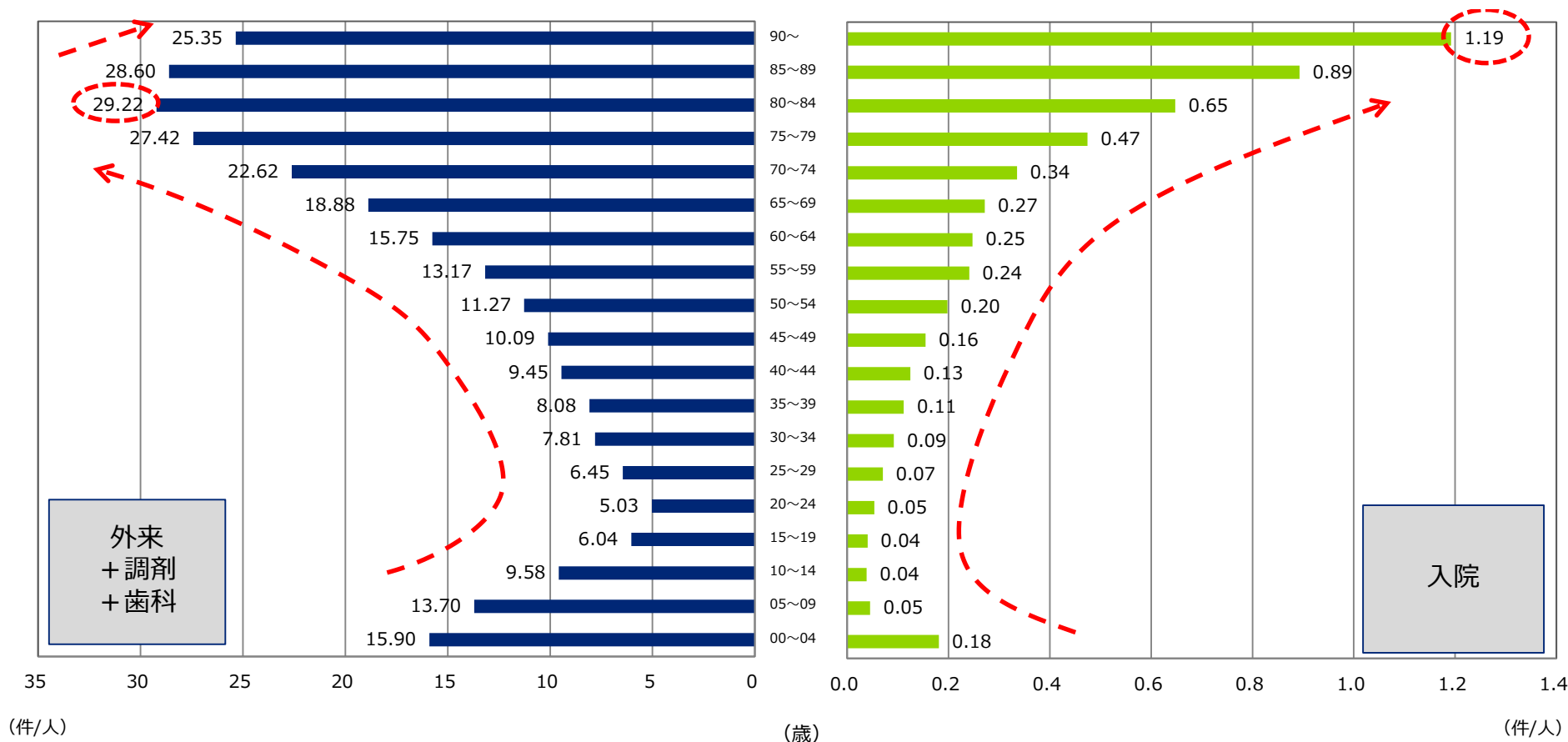


※国保+後期

2-2 (2) . 年齢別の被保険者 1 人当たり医療費の三要素分析 (受診率)

■ 受診率 (レセプト件数 / 被保険者数)

- 入院、外来+調剤+歯科ともに、0～4歳を基準に見ると5歳以降一定の年齢まで減少する傾向が見られ、入院では10～19歳、外来+調剤+歯科は20～24歳が最も低くなり、その後増加に転じる。
- 入院は70歳以降増加割合が高くなり90歳以降まで増加を続ける一方、外来+調剤+歯科では80～84歳がピークとなり、85歳以降では減少に転じる。



※国保+後期